

都市計画マスタープラン策定に向けた意見交換会の議事概要

第 1 回台東区都市計画マスタープラン策定に向けた研究会における主な議論抄録版

<p>【開催概要】</p> <p>日時：平成 29 年 9 月 20 日（水）</p> <p>野澤委員長、加藤委員、池邊委員、中島委員、都市計画課、NSRI</p>	<p>【議題】</p> <p>1 研究会の目的・進め方</p> <p>2 分野別整備方針の検討について</p> <p>① 分野別整備方針検討の方向性について</p> <p>② 土地利用方針の検討について</p>
--	---

1. 分野別整備方針検討の方向性について

(1) 道路・交通整備方針

① 道路のあり方について

- 道路整備、歩行者・自転車の環境整備など、別々に記載されているが、本来の道のあり方をふまえた全体の考え方の記載が必要。(例えば車道と歩道の一体的な整備など)
- 路上での社会実験や上野周辺の広場整備・活用などを見据え、「場」としての道路の考え方を打ち出した方がよい。
- 一般的に基盤整備が強調されている。歩行者のための空間づくりを本文のみならず、項目レベルでも読み取れるように強調する必要がある。

② 観光バスについて

- 観光バス対策が強調されすぎている。ツーリズム対応は短期対策である。団体旅行も減少している今、時代に逆行している印象を受ける。

③ 自転車について

- コミュニティサイクルの導入に関して、台東区の場合は、利用者の用途や OD などの特性を考えると様々な方向へのアクセスが向上するため、効果があるかもしれない。

(2) 防災まちづくり方針

① 上野・御徒町周辺の整備について

- 上野・御徒町周辺では、建物更新等により安全性が向上することを示した方がよい。

② 復興まちづくりについて

- 復興まちづくりの推進では、どのような復興課題があるか整理することが重要である。

(3) 住宅・住環境整備方針

① 住環境に関する記載について

- 全体的に住まい・住宅単体の話が多く、住環境に関する記載とのバランスが悪い。住まいをめぐる住環境の話を追加する必要がある。住宅単体については、主に住宅マスタープランで議論しており、都市マスでは住宅単体より住環境について方針を出すべきである。多様な人が居住するために、まちに必要な機能は何かを言及する必要がある。

(4) 水とみどり・環境整備方針

① 公園の整備について

- 近隣公園の整備、公園のリニューアルなど、有効活用されていない空間の緑化、公園化についても検討の余地がある。公園は、人が楽しく過ごせる空間を意味する。公園も不動産価値を高めるツールとなり、有効活用されていない公園は周辺の価値を高める唯一の隙間として捉えることができる。
- 公園とまちの関係を考えた方がよい。公園の中の親水性向上のみならず、まちからも親水空

間が見える視点も重要である。

(5) 景観まちづくり方針

① 自然的要素を活用した景観形成について

- 景観まちづくりのみならず、みどりの分野でも必要な記載である。

② その他（上空からの眺望、屋外広告物ガイドライン）

- 台東区において、上空からの眺望を意識する意味があるのか。

(6) 文化・産業・観光に関する方針

① 人の生活が見える計画づくりについて

- 全般的に人の生活が見えない内容となっている。新しい台東区のライフスタイルを打ち出し、より人を強調した書き方にした方がよい。住民のみならず、通勤・通学者、商業の人などから選ばれるまちになるため、新しい人たちをどうやって受け入れていくのかという視点を考慮する必要がある。
- 産業振興政策と連携した土地利用は、基本的な考え方というよりは方針に近い。基本的な考え方では、産業振興政策との連携で何をめざすかを書くべきである
- 台東区らしさを考えると、文化・産業・観光に関する方針が先にあってもいい。

② 既存宿泊施設のリノベーションについて

- 既存宿泊施設のリノベーションは賛否両論があるため、既存宿泊施設と結びつけない方がよいと考える。

2. 土地利用方針の検討について

(1) 複合市街地の誘導について

- 複合市街地の誘導はどのようなイメージか。台東区の複合市街地は今後どう考えたらいいのか。マンションが乱立するとパンク状態になる。人口上限を見据えた空間計画が必要である。

(2) 立体的な土地利用の検討について

- 地域別整備方針でよりきめ細かな検討をすることに賛成。／同じ土地利用でも地域によってメリハリがある。立体的な土地利用について分野別整備方針で検討すると、均一な検討になるおそれがある。
- 一方、道路基盤は均一であるので、それを活かして一般複合市街地でのモデルとなるように、街区のタイプやめざすべき街区像の設定など、境界部分の調整を行ってはどうか。

(3) 作業所について

- 「作業所」という用語より、スタジオ、工房、クラフトの方が、台東区のイメージにも合っている。まちなかにガラス張り工房などがあると、まちの雰囲気が変わってくる。
- クラフト系に関して、もっとエリアを広げてもいいと思う。南部地域にも一定の集積があるため、北部地域だけに絞ると地元の人に誤解されるおそれがある。

(4) 合意形成の対象について

- 多様な土地利用誘導方策の活用では、合意形成の対象を地域住民に限定している。地域に関する人は地域住民だけではない。どうやって人が住んでくれるかの視点を考慮すべき。対象を地域住民に限定しない方がいい。
- 上野は、大学サテライトを誘致するのにふさわしい場所と考える（特に工房型サテライト）。

第2回台東区都市計画マスタープラン策定に向けた研究会における主な議論抄録版

【開催概要】 日時：平成30年1月17日（水） 野澤委員長、池邊委員、中島委員、都市計画課、NSRI	【議題】 1 将来都市像、分野別方針の基本的考え方の再構成について 2 分野別整備方針の検討について 3 実現化方策の検討について 4 その他
---	---

1. 将来都市像、分野別方針の基本的考え方の再構成について

(1) 台東区の将来都市像について

- 人が住まう・営む舞台が都市であり、営みが入ることが台東区の特徴。働く人、若い人の就業形態は他の区にないものである。江戸の頃から人が集まって楽しんで、様々な要素が混在していて楽しいまち・台東区を支える都市計画マスタープランとわかる、人が主役の計画書にしたい。
- 外国人や新住民も参加することで区民になる循環が生み出されることの記載あるとよい。
- 分野別は目玉になっている項目を見出しに出すだけでも台東区らしさが伝わるようになる。
- 台東区が何を打ち出しているのかわかりにくい。打ち出すものをきちんと抽出したほうがよい。／老舗の旧都心。他区の高層・超高層に比べて地に足のついた都心として、住む人に対して売りになる。歴史・文化がある。

2. 分野別整備方針の検討について

(1) 分野全体にかかわること

① 不足している視点やキーワード

- おかちまちパンダ広場のような道路と民地が一体となった空間、公園でも道路でもない民地をうまく活かすことの記載を入れたほうがよい。
- 公園とまちのつながりについての言及が必要。不忍池と周辺のまちの関係、境界部のつくり方や公園の空間構成等。隅田川についても同じことが言える。

② 表現・体裁について

- 読み物になるよう、ビジュアルやストーリーによって語る必要がある。

③ 都市計画マスタープラン全体の構成について

- 「文化・産業・観光」が最初に出るだけでこれまでにない新しいマスタープランになる。台東区の魅力として、中身は変わらずイメージが変わる。
- 土地利用方針のうち、基本的な方針だけ分野別の前にあればよい。今の構成では土地利用方針のなかで観光に関する記述が出てこないように見える。
- 目次になるとタイトルだけになり、どこの区の都市マスも同じに見える。特徴的なフレーズを小出しして面白そうと思えるものにしてほしい。

④ エリアマネジメント等、実現化方策との関係について

- 観光にもエリアマネジメントの観点が、特に上野・浅草において必要である。
- エリアマネジメントについて、土地利用方針の誘導方策の活用のなかに記載があるが、これは土地利用だけのことではない。全体的にちりばめるか、第6章の実現化方策に入れるかしたほうがよい。土地利用だけにあるのは違和感がある。

(2) 防災まちづくり方針

① 防災まちづくり方針図について

- 災害拠点病院が少ないことが目立つ。隣接区で補完しあうということであれば、他区の位置

づけをプロットしたほうがよい。

(3) 水とみどり・環境整備方針

① 風格のある住宅地のみどりについて

- 「風格のある住宅地のみどりの維持・向上」が、公園だけで住宅地のみどりへの言及がなくなってしまうている。
- 特色ある公園整備によって周辺の住宅地の資産向上、コミュニティ向上が期待できる。

② 公園整備について

- 公園整備費用のオーダーは以前より下がっているのに、ちょっとした設えで変わり投資効果も高い。まちが変わると住民のライフスタイルや価値観が変わる。

③ 水とみどりを結ぶネットワークの形成

- 「みどりと風の道」等は特徴的なフレーズなので見出しに持ってくるなど、表現を変えたほうがよい。

(4) 文化・産業・観光に関する方針

① 台東区ブランドについて

- 土地利用方針には文化・産業に関する記述があまり出てこないが、若い人の産業がまちづくりに重要である。台東区ブランドを打ち出せるとよい。／一般化されすぎるとどこも一緒のマスタープランになる。

3. 実現化方策の検討について

(1) まちづくりの主体と役割について

- まちづくりの主体はこれだけではない。地元で商売をしている人等をステイクホルダーとしてまちづくり参画してもらうことを前面に出せば台東区の特徴が出せる。

(2) 協働のまちづくりとまちづくりの理念の関係、全体の構成等

- 「自律性」、「柔軟性」、「誇り」、というキーワードを以て協働のまちづくりに色を加えると台東区らしくなる。